

青森北進路通信

第1号

スタートから2か月

新入生を迎え新しい年度が始まり2か月が経過しました。1年生は4月のオリエンテーションや5月の定期考査を終え、徐々に学校生活のサイクルをつかみ始めているようにも見えます。次は、高校生活をどう過ごすか進路を見すえた自分なりの学習ペースを意識しましょう。2年生は文理に分かれて心機一転のスタートをきりました。部活動では先輩を支えつつ、勉強に探究活動に、日々やるべきことにしっかりと取り組むことが大切です。3年生は進路に向けた様々な動きが本格的にスタートしました。連絡や情報を確実にキャッチし、「聞いてなかった」「うっかりしていた」ということがないようにしましょう。当然ですが出願などの手続きは期限厳守で、出しそびれたら終わりです。進路に責任を持つのは、先生でも親でもなくあなた自身です。



3学年 第1回進路志望調査結果（4月実施）

区分	今回		前回	
	人数	(%)	人数	(%)
国立大	18人	(9.5%)	20人	(10.3%)
公立大	26人	(13.7%)	30人	(15.4%)
私立大	62人	(32.6%)	49人	(25.1%)
国公立短大	1人	(0.5%)	0人	(0.0%)
私立短大	5人	(2.6%)	8人	(4.1%)
専修学校等	25人	(13.2%)	30人	(15.4%)
就職	52人	(27.4%)	53人	(27.2%)
未定	1人	(0.5%)	5人	(2.6%)
合計	190人		195人	

前回(令和5年12月)との比較

現3年生の国公立大学志望者は44名(全体の約23%)で、そのうち青森県内の国公立大学の希望者数は、弘前大学が10名、青森県立保健大学が10名、青森公立大学が13名と、この3校の志望者が国公立大志望者全体の約75%を占めており、地元志向が顕著です。総合型選抜や学校推薦型選抜での受験を希望する生徒も多いと予想されますが、学びたいことについて視野を広げ、学ぶ意欲について自己PRできるだけの材料を早くから整理し、選抜試験に備える必要があります。また、私立大や専修学校等の志望者は、「入れるところ」ではなく「本当に入りたいところ」を妥協せず探すべきです。国公立大とは異なり、学費や諸費用は学校、学部によって様々です。授業内容や卒業後の就職先などを詳しく調べ、よく検討しましょう。

今年度は就職志望者が例年に比べて多く、左表の調査以降もやや増加し、現在までに公務員38名、民間就職15名の計53名となりました。試験は進学希望者よりずっと早く、9月から始まり、公務員試験は難関ですから、一日一日を大切に過ごそうにしましょう。

2025 変わる大学共通テスト

～新学習指導要領初の大学入試～



2022年から始まった新学習指導要領。今年度は1～3全年がこの新学習指導要領を基とした教育課程を履修しています。現3年生は、新学習指導要領に対応した初の大学入学共通テストを経験することになりますが、2025年度の大学入学共通テスト(令和7年1/18と1/19)は昨年度に比べて教科・科目の再編など、大掛かりな変更があります。

例えば、新教科「情報」が追加され、「地理歴史」「公民」では出題科目が大きく再編されます。数学②では「II, B, C」の1科目となり、試験時間が60分から70分に延長されます。国語では試験時間が80分から90分に延長されるほか、問題構成・配点に変更されます。

一般選抜や学校推薦・総合型選抜で大学を受験する際には、この共通テストを避けては通れません。自分がどの科目を受験できる、またはできないのかをよく理解し、3年生はこれから始まる講習でも意識しながら計画的に学ぶ必要があります。

5月現在、今年度の入試要項(暫定版)や入試に関する予告を公表している大学があります。受験生は志望大学のホームページで確認し、対策していきましょう。

R6.5.7 総合型・学校推薦型仮登録説明会(3年)→



3年生「公務員試験ガイダンス」を実施、6月中旬から国家公務員の出願スタート!

6月10日(月)、3年生を対象に「公務員試験ガイダンス」を実施します。その直後には、国家公務員(一般職または税務職)のインターネット出願がいよいよスタートします。

公務員志望者は4月末から6月にかけて公務員模擬試験(4回)に取り組んでいます。運動部に所属している生徒の場合は、部活動の合間を縫って自宅受験をしています。その中で「教養試験」(90分または120分)が思うように解けない生徒が多く見られます。その内容はズバリ高校で学習している5教科です。

つまり、いかに普段の授業が大切かということ。「公務員志望だから、学校の勉強はそんなに頑張らなくてもいい」と思っている人がいるとしたら大間違いです。むしろ大学受験者よりずっと早く本番の試験があるため、準備期間は限られており、しかも高倍率の厳しい試験です。

3年生はもちろん、1・2年生の皆さんも今一度「すべての授業」に真剣に取り組んでください。日々の授業や小テストを大切に!



進路関連行事 実施報告

4月30日 保護者進路研修会「こどもを進学させるお金の話」を開催

講師 株式会社まなびシード 奨学金アドバイザー 久慈 拓也 氏

昨年度好評だったこの研修会は、奨学金への関心の高さに加え、今年度は生徒一緒に参加も推奨したため、保護者155名、生徒74名と予想以上の申込者数となりました。親子で奨学金についての説明を聞いたという保護者からは、「子どもが自分事としてとらえる良い機会になった」「学校生活における心構えも変わると感じた」という声が聞かれました。

約1時間にわたって、現在の奨学金制度や変更点、活用方法、教育ローンの意義等について、久慈先生には詳しくご説明いただきました。その後の個別相談では多くの方が先生の前に並び、お話を聞いていました。青森県は私立を含めた四年制大学の数が東北で2番目に多いようですが、県内での大学進学であっても、一体、何にどのくらいの費用が必要なのか、知っておくべきことは何か、現実的な情報を得られたことは、有意義であったと思います。本校でも毎年多くの生徒が予約奨学金の申請を行っています。奨学金は、生徒自身が借りて将来返済するお金ですから、保護者と生徒本人がよく話し合い、しっかりと理解して手続きしましょう。

* 5月26日(日) リンクステーションホール青森・大会議室でも、同じくまなびシードの講師が「奨学金スペシャルセミナー&進路相談会」を行います。事前申し込みは右のQRコードからどうぞ。

* 奨学金関係の校内の窓口は教務部です。個別相談された方の回答もお答えできますので、質問等はお問い合わせください。

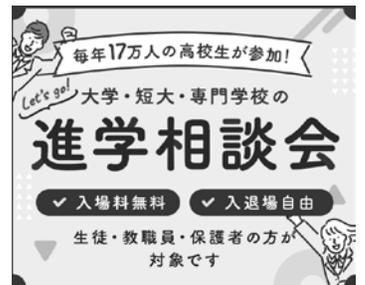
5月22日 「大学・短期大学・専門学校進学相談会」(エイビ進学ナビ主催)に参加

学校から送迎バスを利用し、計36名が相談会に参加しました。会場ではそれぞれが興味ある学校のブースで、授業の内容や学校の特徴について詳しく聞き、入試の日程や対策について情報を得ていました。ホームページや学校案内だけではわからない、細かな内容について確認することができるので、機会を見つけて今後も進学相談会に参加して情報を収集しましょう。



熱心にメモを取りながら話に耳を傾けている保護者が多く、講演後には個別相談も行われました。

入場券申込みQRコード



進路関連行事予定

- 6月7日(金)～8日(土) 3学年進研共通テスト模試
- 6月10日(月) 3学年公務員試験ガイダンス(放課後)
※国家公務員試験のインターネット出願がいよいよ始まります
- 6月11日(火) 1学年進路講演会(7校時)
※文理選択等について
- 6月20日(木) 3学年進路講演会(7校時)
※志望理由書の書き方や求人票の見方等について
- 6月22日(土) 保護者進路研修会(進学) 10:30～12:00 【本校会場】
第I部 本校での進学状況について
第II部 進学の意義や受験の仕組みと準備、総合型・学校推薦型選抜について
※HRを通じてご案内配付済み、申込締切6月16日となっております
- 7月24日(水) マイナビ進学ライブ(産業会館) 株式会社マイナビ主催(2年対象)
- 8月27日(火) 3学年進路講演会(7校時) ※面接・自己PR対策について



講師はこちら！



株式会社ソーシャル
デザイン研究所
採用・コンサルティング
アドバイザー
姜 雅人 氏

1999年就職・採用コンサルタントとして独立。現在は大学向け等の就職講座を年150回以上行い、高校、中学向けにはキャリアで考える進学講座。企業・団体向けに人材活用・育成に関する講演、研修を行うと同時に、採用活動にも携わっている。

卒業生の活躍を追う ～北高 is shining～

入学生代表挨拶に昨年度の卒業生の姿

(東奥日報 2024年4月4日付「決意新たに研さん誓う」より)

4月3日、弘前市の学校法人弘前城東学園が運営する弘前医療福祉大学・短大部入学式がありました。同大学保健学部看護学科の入学生を代表し、本校(令和5年度)卒業生の川村うみさんがステージ上で入学の誓いを述べる様子が新聞に掲載されました。川村さんは「ここ数年で感染症や災害などが時に私たちの生活を脅かしてきた。前に進む中で、助け合いや思いやりを感じた。ホスピタリティー精神を兼ね備えた専門職になれるよう日々精進していく」と決意を述べています。同大学には昨年度、本校から看護学科、医療技術学科、短大部の救急救命学科に卒業生が進学しています。

卒業生の一人に聞くと、皆、新しい仲間と共に実習や勉強に追われながらも頑張っています！とのことでした。



新入生を代表して誓いの言葉を述べる川村さん—弘前医療福祉大

青森県警交機隊の佐々木巡査長 白バイ大会で頂点
(東奥日報 2023年11月11日付より)

白バイ隊員が運転技術を競う「全国白バイ安全運転競技大会」(令和4年)で、青森県警交通機動隊青森方面隊、本校出身の佐々木万智子巡査長(27)が、女性の部の「バランス走行操縦」競技で優勝しました。全国の精鋭らの頂点に立った佐々木さんは「白バイ隊員になって4年弱。日頃、積み重ねてきた訓練が自信につながった」と喜びを語りました。

この大会は最大3回しか出場できない規定があり、佐々木さんは今回がラストイヤー。懸ける思いは人一倍だったようです。結果は千点満点のうち、999点と高得点で圧勝。高校時代、同級生を交通事故で亡くし、「こんなに悲しい思いをする死亡事故が起きてはならない」と警察官の道を志したそうです。大会で上位を目指す「特別訓練員」として特訓を積み重ね、今回の栄誉につながりました。

